玉名の遺跡
シリーズ⑤

たかおかばるいせき
高岡原遺跡

【お問い合わせ】
玉名市教育委員会
文化課文化財係
TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp

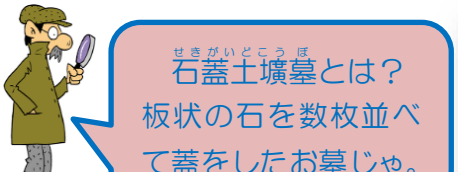
高岡原遺跡は、境川左岸の台地上に位置しています。市内において最も発掘調査件数が多い遺跡で、これまでの調査結果から、弥生時代後期を中心とする大規模集落跡と考えられます。

また、中世期においては、当該台地西端に大野一族の居館があったと推定されています。

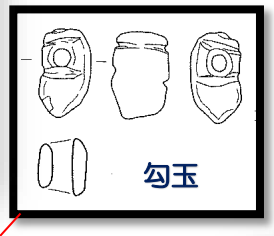
弥生時代　～　弥生時代後期の大規模集落　～

高岡原遺跡では、これまでの発掘調査で合計 80 基の竪穴住居跡が確認されています。環濠は検出されていませんが、多くの土器などと共に、小型仿製鏡と舶載鏡（破鏡）も出土しており、有力な集落だったと考えられます。また、同時期のお墓も数か所で見つかっています。

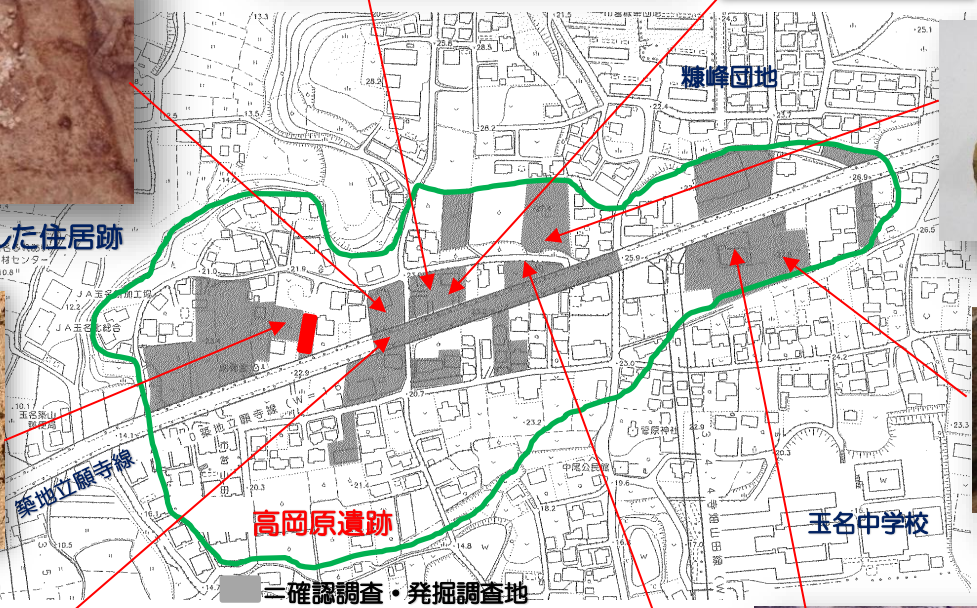
▲平成 17 年度の発掘調査状況



石蓋土壙墓



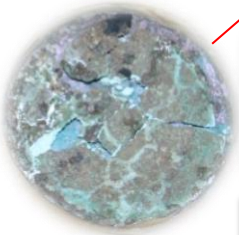
多くの土器が出土した住居跡



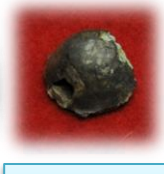
砥石

勾玉の出土状況

土壙墓

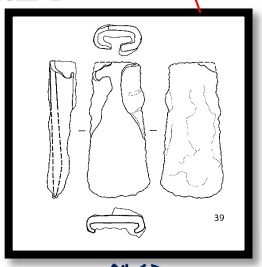


小型仿製鏡



舶載鏡（破鏡）
※鏡の紐の部分

- 舶載鏡は中国で作った鏡
- 仿製鏡は国内で作った鏡

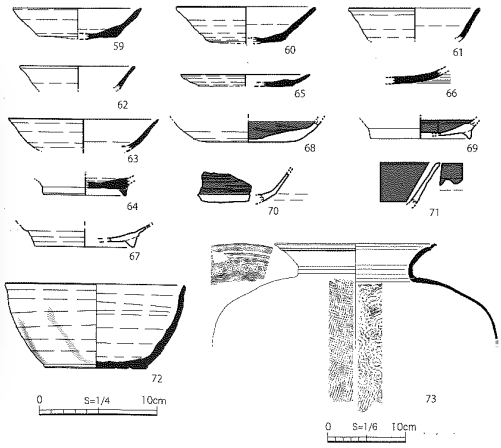


鉄斧

火災を受けた住居跡

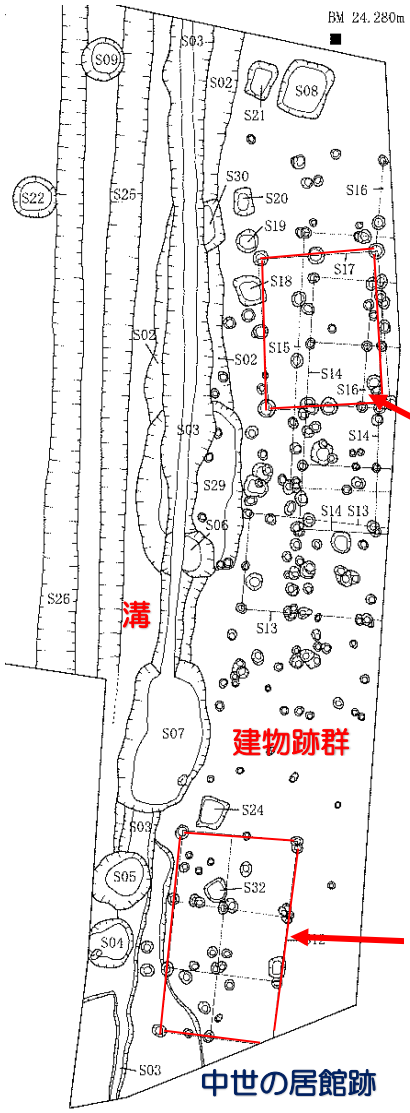
古代　～　玉名郡司・日置氏の時代　～

古代になると、当時の玉名郡司であった日置氏により立願寺一帯に郡衙（当時の郡役所・米倉・寺院など）が整備されますが、高岡原遺跡東側もその範囲に含まれていたと考えられています。これまで、郡衙に関連する明確な遺構は見つかっていませんが、当該期の溝や遺物（須恵器・瓦）が出土しています。



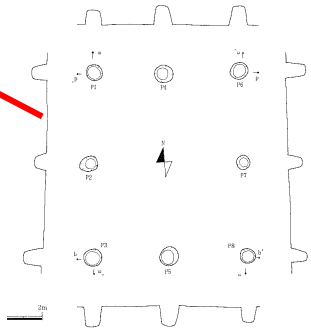
古代の遺構と出土した須恵器など

中世　～　大野一族の繁栄とその軌跡　～

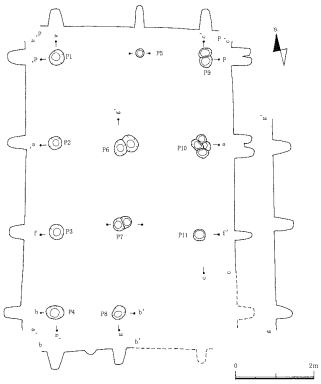


中世の居館跡

中世になると、大野別府（繁根木川右岸の旧玉名市及び旧岱明町一帯）を本拠地とした大野氏が、一帯に一族の居館や城を構えていきました。高岡原遺跡の西側には、大野国隆の館があったと推定されており、16 世紀中頃の文書にも「高岡居屋敷」と記されています。平成 28 年度の店舗建設に伴う発掘調査では、掘立柱建物跡 7 棟や、それらに伴う溝 1 条と共に、13～16 世紀の輸入陶磁器が出土しており、その繁栄ぶりがうかがえます。（※居館跡の調査地は表の地図で　　の部分）



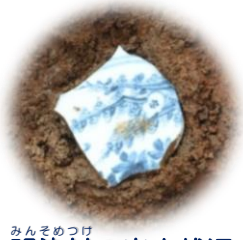
掘立柱建物跡（S17）



掘立柱建物跡(S12)

溝と掘立柱建物跡

溝



明染付の出土状況

ドーナツ状の軽石製品

土壙墓出土の青磁碗

平成４年度の調査ではこのように完形の青磁碗が出土しています。

中国明の染付磁器

「明の染付」とは？

中国の景徳鎮窯などで焼かれた磁器。16 世紀の明の歴史書にも「高瀬」と記載されておる。海外貿易港であった高瀬港から陸揚げされた可能性があるんじゃ！